

# 答案は一つの作品である

## —モヤシからのメッセージ—

先週、高校の先生のお話を聞く機会があった。

金沢市内にある某県立高校である。一応進学校である。

その先生は数学の先生なのだが、今年の入学試験の採点をした結果から、傾向がどうであったのか、どんなところができていなかったのかというお話と、中学生にのぞみたいことというお話だった。

どんなところができていなかったのか（つまりは受験に向けて何を勉強したらいいのか）ということについては、このあとまた数学だけではなく各教科の先生からお話があると思うので、ここでは答案を書くにあたっての留意点を中心に、印象に残ったお話をいくつか書いておこう。

## 1 精一杯受験生の理解度をみている

入試の採点は、先生方総がかりである。配点は石川県の公立高校としては決まっているが（昨年の例 方程式の文章題10点、作図、証明各8点、関数の問題7点といった具合）採点基準の細かいところは学校で検討している。そして時にはたった1人の答案のある1題だけで、先生方が集まって30分もかけて採点している。それほど厳正な採点をしているのだ。

時には作図の線が薄いので、消したのか、鉛筆の濃さが薄かったのかまでみている。ちゃんと作図したのかを見るために、答案を裏返して、コンパスの針がささっているのかどうかまで見るそうである。

それほど一生懸命に、この自分の高校に入ろうとする中学生の理解度を見ているのである。

ということは、それほど一生懸命に考えて答案を書くべきなのである。

## 2 読みやすい文字、誤解しない、されないような文字、濃い文字を書くこと

今年の入試の証明問題では図形の点で「D」と「P」が出てきた。これが、人によってはいったいどちらなのか、読みにくい答案があったそうである。つまりいい加減な文字を書いている人がいたということだ。

だから、しっかりと読みやすい文字を書くこと、また、いまほどの「D」と「P」をあまりに適当に書くので、自分自身で途中から間違ってしまった人もいたそうである。

また、上にも書いたように作図のコンパスの線が消したのが薄いのかわからない人もいたそうである。

やはり答案は読んでもらうものである。

読みやすい文字でしかもはっきりと濃く書くことが大切である。

### 3 途中の考え方や計算・式をていねいに書き残すこと

数学では最後の答だけで採点することはない。どんな考え方なのかを詳しくみている。つまりは途中の考え方や計算・式をていねいに書き残すこと、これが大切である。

採点基準は高校ごとの秘密なのだが、少なくとも、最後の答だけで、 $\bigcirc\times$ にしていない。ていねいに途中を読んでいる。

最後の答までたどり着けなくても、途中までで、途中点がある。それは最初に書いたように、受験生の理解度を精一杯見ているということなのだ。

しっかり、ていねいに書き残すべきである。

### 4 読解力・表現力をみがくこと

これも高校の先生が言われていたことだ。

文章題の意味が読み取れない子、いったいどういう条件なのかがわからない子、だから問題が解けない。

証明問題を答えるのに、根拠をきちんと書いていない子、すじみちだった流れになっていない子、だから満点が取れない。

それと数学ならおきまりの表現をしていない子がいた。たとえば約分をしていない、式を整理して答えていない。(計算して最も簡単な形にして表現していない。) そんな答案だ。

これはやはり練習が必要である。日々の学習が大切である。

ということで、諸君、明日は実力テスト。君のここまでやってきたことが試される。数学だけに限らない、

# 答案は一つの作品である

今日のことわざ (五味太郎「ことわざ絵本」より)